

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
衛生法規		パティシエ・ベーカリー学科 ／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	大賀 崇宏
授 業 の 概 要				
衛生の保持は社会秩序の基本です。本講では、憲法25条の理念に基づいて制定された衛生法規を中心に法制度と法令の主旨を学び、社会の一構成員として、製菓衛生師としての資質の向上を図ります。				
授業終了時の到達目標				
・ 法学や衛生行政に関する基礎的事項を理解する。 ・ 製菓衛生師法について理解する。 ・ 食品衛生法と衛生関係法令の概要を知る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		学校教育法に基づく大学において法律学を修めた者		
時間外に必要な学修				
【準備学習】 次回の授業内容を踏まえて教科書を用いて予習する				
回	テ ー マ		内 容	
1	1. 法学大意		1) 法規とその種類	
2	1. 法学大意 2. 衛生行政概説		1) 法規とその種類 1) 衛生法規と関連法規 2) 衛生行政概説	
3～ 4	2. 衛生行政概説		2) 衛生行政概説	
5～ 6	2. 衛生行政概説		3) 我が国の衛生行政機構	
7	3. 製菓衛生師法		1) 製菓衛生師法の沿革	
8～ 10	3. 製菓衛生師法		2) 製菓衛生師法の概要	
11	3. 製菓衛生師法 4. 関係法規		2) 製菓衛生師法の概要 1) 食品衛生法	
12	4. 関係法規		1) 食品衛生法 2) 食品安全基本法	
13	4. 関係法規		3) 食育基本法 4) 調理師法	
14	4. 関係法規		5) 栄養師法 6) 健康増進法	
15	4. 関係法規		7) 地域保健法 8) 感染症予防法 9) その他関係法令	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
製菓衛生師全書 上 全国製菓衛生師教本 上 その他、必要に応じて資料配布		総合評価	100%	総合評価（試験70%、平常点30%←出席率・授業態度・提出物）

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学		パティシエ・ベーカリー学科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	横山 加奈
授 業 の 概 要				
健康は人間にとってかけがえのないものです。しかし、現代社会の中で健康を確保するということは非常に難しく、公害や生活習慣病など個人の力では解決できない問題が多く存在します。公衆衛生では、このような問題を解決するために行われている国や地方公共団体などの組織的な活動について学びます。 また、生活習慣病の予防と菓子成分の関わりなども学習していきます。				
授業終了時の到達目標				
・ 我が国における公衆衛生の意義と現状および環境衛生の意義を知る。 ・ 感染症と生活習慣病に関する理解を深め、疾病全般の予防に努めるようになる。 ・ 労働衛生の基本的知識を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		調理師資格および管理栄養士資格保持 ・ 栄養士として病院に約１０年勤務 ・ 管理栄養士としての知識と経験をパティシエ・ベーカリー学科の資質向上に役立つよう授業展開する		
時間外に必要な学修				
・ 毎回の授業に関する復習を行うこと。 ・ 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習を行うこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	公衆衛生学		・ 公衆衛生の意義	
2～4	公衆衛生学		・ 公衆衛生の歴史 ・ 公衆衛生の現状 ・ 衛生統計	
5～10	疾病予防		・ 感染症の予防	
11～14	疾病予防		・ 生活習慣病の予防	
15～17	労働衛生		・ 労働と健康	
18～20	労働衛生		・ 安全衛生管理 ・ 母子保健 ・ 学校保健 ・ 後期まとめ	
21～22	環境衛生		・ 衛生環境の意義	
23～24	環境衛生		・ 環境と健康（水道、清掃）	
25～26	環境衛生		・ 環境と健康（そ族などの駆除、その他の生活衛生）	
27～30	環境衛生		・ 環境と健康（公害） ・ 前期まとめ	
教科書・教材			評価基準	評価率
製菓衛生師全書 上 全国製菓衛生師教本 上 これで合格 製菓衛生師試験問題集 その他、必要に応じて資料配布又は書籍を紹介			総合評価	100%
				総合評価（試験70%、平常点30%←出席率・授業態度・提出物）

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
食品学		パティシエ・ベーカリー学科 ／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	佐藤 智恵子
授 業 の 概 要				
健全な食生活をおくるためには、食品に含まれる各種成分（栄養成分、嗜好成分、機能性成分）とその特性について理解する必要があります。 食品学では、食品中の各種成分がどのような食品に含まれているのか。それらの成分が保存中や食品加工・調理中にどのような成分変化を起こすか等について学んでいきます。				
授業終了時の到達目標				
・食品に含まれるおもな栄養成分の分類、構造、性質、機能について理解する ・おもな色素成分、呈味、匂い成分などの分類と、それぞれの特徴について理解する ・植物性食品、動物性食品の分類と、それぞれの特徴について理解する ・食品保存中の変化や食品加工・調理中の成分変化について理解する ・特別用途食品や、保健機能食品、新しく制定された食品表示法について理解する ・食生活がどのように変化をし、現在どのような問題を生じているのかを理解する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	栄養士として14年の実務経験 栄養士としての幅広い経験を、製菓衛生師（パティシエ）の資質向上に役立つよう授業展開する。			
時間外に必要な学修				
毎回の授業に関する復習を行うこと。 次回の学習内容を踏まえてテキストを用いて予習すること。				
回	テ ー マ	内 容		
1	食品学	①食品の条件について ・食品学とは ・食品の人体における機能ほか		
2～4	食品学	②食品の種類と成分について ・一般成分 ・嗜好成分 ほか		
5～6	食品学	③食品の分類と特性について ・食品の種類と分類 ・食品の特性 ほか		
7～9	食品の変質とその防止	①食品の変質について ・自己消化 ・腐敗・変敗 ほか		
10	食品の変質とその防止	②食品の変質の防止について ・食品の変質の防止 ・その他の反応 ほか		
11～18	食品の変質とその防止	③食品の保存方法について ・物理的処理による方法 ・細菌学的処理による方法ほか		
19～20	食品の生産と消費	①食品の消費構造の変化について ・食品の消費構造の変化 ・特別用途食品 ほか		
21～26	食品の生産と消費	②食品の生産について ・生産の動向 ・有機農産物 ほか		
27	食品の生産と消費	③食品の生産と輸入について ・食品の生産と輸入 ほか		
28～30	食品の生産と消費	④食品の流通と価格について ・食品の流通と価格 ほか		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
製菓衛生師全書 上 全国製菓衛生師教本 下 これで合格 製菓衛生師試験問題集 その他、必要に応じて資料配布又は書籍を紹介		総合評価	100%	総合評価（試験70%、平常点30%←出席率・授業態度・提出物）

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
食品衛生学		パティシエ・ベーカリー学科／1年	2025／通年	講義・実習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	60回	120時間	必須	佐藤 智恵子

授業の概要

食品はまず安全でなければなりません。そして、生命の維持、健康の保持・増進に欠かすことが出来ない重要なものです。
食品のもつ本来の目的を達成するために食中毒、消毒法、食品添加物、食品の保存法及び個人衛生等について学習していきます。

授業終了時の到達目標

- ・食品衛生の意義と現状を理解している。
- ・食中毒の原因とその予防対策に関する知識を習得し、日常生活で活かすことができる。
- ・食品添加物、食品中の有害物質に関する知識を習得する。
- ・衛生管理に関する興味が高まっている。

実務経験有無	実務経験内容
有	栄養士として14年の実務経験 栄養士としての幅広い経験を、製菓衛生師（パティシエ）の資質向上に役立つよう授業展開する。

時間外に必要な学修

毎回の授業に関する復習を行うこと。
次回の学習内容を踏まえてテキストを用いて予習すること。

回	テーマ	内 容
1・2	食品衛生学	・食品衛生法など食品の安全にかかわる法律とその仕組みについて理解する
3～5	食品衛生学	・食の安全を確保するための考え方であるリスク分析の仕組み、国際組織と行政等の関わりを理解する
6～8	食品衛生学	・食品の変質、腐敗と発酵の違い、化学的変質を理解する ・鮮度・腐敗度の判定法とその原理を理解する
9	食品衛生学 食中毒	・食品と関係する微生物、細菌の構造について理解する
10	食中毒	・細菌の増殖について理解する
11	食中毒	・食中毒の定義、発生状況、病因物質について理解する
12～19	食中毒	・細菌性食中毒、ウィルス性食中毒、寄生虫疾患について理解する
20	食中毒 食品添加物	・食品添加物について使用する意義、種類や使い方を理解する
21	食品添加物	・化学物質の安全性評価方法を理解する
22・23	食品添加物	・食品添加物の一日摂取量調査と使用基準の設定方法について理解する ・食品添加物の表示方法について理解する
24～27	食品添加物	・食品衛生法による食品添加物の分類、各添加物の概要について理解する
28・29	食品添加物	・農薬や動物用医薬品について使用する意義、種類や使い方を理解する ・食品の器具や容器包装について理解する

回	テ ー マ	内 容		
30	食品中における有害物質	・ 自然毒食中毒の発生状況や特徴、その種類と発生の機序について理解する		
31～33	食品中における有害物質	・ 化学性食中毒してヒスタミン中毒、カビ毒について理解する		
34・35	食品中における有害物質	・ 有害元素の種類と毒性について理解する		
36・37	食品中における有害物質	・ 残留性有機汚染物質にはどのような化学物質があるかを理解する		
38	食品中における有害物質	・ 食品に混入する異物の種類と混入防止について理解する		
39	食品中における有害物質 衛生管理	・ 食物アレルギー症状を引き起こす食品、遺伝子組換え食品とその表示方法について理解する		
40	衛生管理	・ 食品の取り扱い 衛生管理指導 【実習①】 実習の意義、実験器具の説明		
41	衛生管理	・ 食品の取り扱い 衛生管理指導 【実習②】 水道水の残留塩素濃度測定		
42	衛生管理	・ 食品の取り扱い 衛生管理指導 【実習③】 食品のpH測定		
43	衛生管理	・ 食品の取り扱い 衛生管理指導 【実習④】 生卵の鮮度判定		
44	衛生管理	・ 食品の取り扱い 衛生管理指導 【実習⑤】 食肉の鮮度判定		
45	衛生管理	・ 食品の表示の役割と概要について理解する		
46	衛生管理	・ 食品の取り扱い 衛生管理指導 【実習⑥】 食品からの各種細菌の検査		
47	衛生管理	1. 食品の取り扱い 衛生管理指導 【実習⑦】 食品内部温度の測定		
48・49	衛生管理	・ 適切な洗浄と消毒について理解する 【実習⑧⑨】 手指洗浄後の汚れの検査		
50	衛生管理	・ 適切な洗浄と消毒について理解する 【実習⑩】 調理器具の汚れの調査		
51・52	衛生管理	・ 消毒方法、その使用にあたっての注意点を理解する 【実習⑪⑫】 細菌検査		
53	衛生管理	・ 食品衛生管理において、食中毒などの食品危害の発生防止が最優先であることを理解する		
54・55	衛生管理	・ 日本でのHACCPシステムの取り組みと義務化について理解する		
56～60	衛生管理	・ 一般的衛生管理プログラムではコントロールできない危害要因をコントロールするためのHACCPシステムを理解する ・ 一般的衛生管理プログラムを確実に実施し、食品汚染を最小限に抑える必要性を理解する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
製菓衛生師全書 上 全国製菓衛生師教本 上 これで合格 製菓衛生師試験問題集 その他、必要に応じて資料配布又は書籍を紹介		総合評価	100%	総合評価（試験70%、平常点30%←出席率・授業態度・提出物）

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
栄養学		パティシエ・ベーカリー学科 ／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	30回	60時間	必須	横山 加奈
授 業 の 概 要				
人間は食物を摂取することにより、生命を維持し、成長し、健康を維持増進している。栄養学は「食生活を通じた健康」を科学的に考究する学問であり、栄養成分の機能、体内利用、排泄などの仕組みについて学んでいく。また、ライフステージごとの特徴を把握し、ライフステージに適合した栄養を考え、豊かな食生活を具現化する知識や方法を身につけることを目的とします。				
授業終了時の到達目標				
・ 栄養の意義および栄養素の分類と機能について理解している。 ・ 栄養の消化と吸収に関し、理解している。 ・ 栄養の摂取に関し、特に栄養成分表示の必要性を理解している。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		調理師資格および管理栄養士資格保持 ・ 栄養士として病院に約１０年勤務 ・ 管理栄養士としての知識と経験をパティシエ・ベーカリー学科の資質向上に役立つよう授業展開する		
時間外に必要な学修				
・ 毎回の授業に関する復習を行なうこと。 ・ 次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習を行うこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	栄養学		・ 栄養学の概要（栄養の意義）	
2	栄養学		・ 栄養素の概要（栄養学とは、人体構成成分）	
3	栄養素		・ 栄養素の分類	
4～ 12	栄養素の機能		・ たんぱく質 ・ 脂質 ・ 炭水化物 ・ 無機質① ・ 無機質② ・ ビタミン① ・ ビタミン② ・ 基礎食品 ・ ホルモンとその機能	
13～ 21	栄養の消化と吸収		・ 前期まとめ ・ 前期定期試験 ・ 栄養の消化と吸収 ・ 口腔内での消化 胃の中での消化 ・ 腸での消化、吸収 ・ エネルギー代謝① ・ エネルギー代謝② ・ エネルギー代謝③	
22～ 24	栄養の摂取		・ 食事摂取基準 ・ 生活消費量 ・ 国民健康栄養調査	
25～ 27	栄養の摂取		・ ライフステージの栄養	
28～ 30	栄養の摂取		・ 食生活と疾病 ・ 栄養成分表示 ・ 後期まとめ	
教科書・教材			評価基準	評価率
製菓衛生師全書 上 全国製菓衛生師教本 下 これで合格 製菓衛生師試験問題集 その他、必要に応じて資料配布			総合評価	100%
				総合評価（試験70%、平常点30%←出席率・授業態度・提出物）

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会		パティシエ・ベーカリー学科 ／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	大賀 崇宏
授 業 の 概 要				
菓子・パンの歴史から製菓・製パン業界を取り巻く現状（生産・消費状況、経営論等）までを学び、現代社会での製菓・製パン業界へのニーズを自ら考える力をつけることを目的とします。そして、実際の店舗経営に役立つ知識も身につけていきます。				
授業終了時の到達目標				
・「菓子と食生活」、「菓子の歴史」、「菓子の生産と消費」に関して理解できている。 ・菓子店舗経営に関する基礎知識を習得している。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	学校教育法に基づく大学において法律学を修めた者			
時間外に必要な学修				
・毎回の授業に関する復習を行なうこと。 ・次回の授業内容を踏まえてテキストを用いて予習を行うこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	1. 菓子と生活 菓子と食生活	菓子と食生活 菓子の役割		
2	1. 菓子と食生活 菓子の歴史	菓子の歴史		
3	1. 菓子と食生活 菓子の歴史	パンの歴史		
4	1. 菓子と食生活 菓子の生産と消費	菓子の生産と消費		
5	1. 菓子と食生活 菓子の生産と消費	菓子製造の要件		
6	2. 菓子店経営論 経営論の概要	ビジネス・プランの企画開発の手順 1) ビジネス開始の心構え 2) ビジネス・プランの企画開発の方法 3) ビジネス・プランの企画開発の実際		
7	2. 菓子店経営論 経営論の概要	企画戦略の確立 1) 経営戦略 2) マーケティング戦略 3) 組織戦略 4) 人的資源戦略 5) 経営方針の確立		
8	2. 菓子店経営論 経営論の概要	店舗オペレーションの原理原則 1) 店舗システムの原理原則 2) 店舗オペレーションの三大原則（3S主義）		
9	2. 菓子店経営論 労働生産性	商品計画の方法 1) 商品計画 2) 商品の価値・味 3) 価格と売上高計画 4) 商品規格		
10	2. 菓子店経営論 労働生産性	店舗のコンセプトづくり 1) ブランド・お客様・立地 2) 店舗企画 3) 店舗設計について 4) 店舗の投資決定		
11	2. 菓子店経営論 労働生産性	8) 資金計画 9) 資金企画の方法 10) 資金調達の方法		
12	2. 菓子店経営論 経営論の概要	マニュアルの作成方法 1) マニュアルの定義 2) マニュアルの体系 3) マニュアルの作成方法 4) ハウスルール		
13	2. 菓子店経営論 労務管理	人事に関する法規 1) 労働基準法 2) 短時間労働者（パートタイマー）法について		
14	2. 菓子店経営論 労務管理	3) 労働安全と衛生		
15	2. 菓子店経営論 労務管理	4) 労働保険		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
製菓衛生師全書 上 全国製菓衛生師教本 上 その他、必要に応じて資料配布又は書籍を紹介		総合評価	100%	総合評価（試験70%、平常点30%←出席率・授業態度・提出物）

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
製菓理論		パティシエ・ベーカリー 学科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	45回	90時間	必須	森原 明日香
授 業 の 概 要				
製菓、製パン技術の向上を目指す上で必要な知識を科学的に理解し、製菓実習と合わせて効果的に技術が向上するように学習をしていきます。また、科学的根拠に基づいた知識を習得することで応用力も身につけることを目標とします。				
授業終了時の到達目標				
・ 製菓理論を学ぶ意義を理解している。 ・ 菓子の原材料についてその種類と名称、特徴・特性を習得し、製菓実習でより理解できるようになっている。 ・ 菓子の分類（和菓子、洋菓子）と製パンに関する理解が深まっている。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		製菓衛生師免許取得後、3年以上の実務経験を有する者		
時間外に必要な学修				
毎回の授業に関する復習を行うこと。 次回の学習内容を踏まえてテキストを用いて予習すること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	製菓理論 菓子の分類		製菓理論を学ぶ意義 菓子の分類	
2. 3	甘味料		甘味料の種類と特徴 甘味料の分類 砂糖の特性 砂糖以外の糖質甘味料	
4	小麦粉		小麦粉の原料である小麦粒について 小麦粉の特徴や成分 小麦粉の用途別分類と特性 品位別分類	
5	でんぷん		でんぷんとは何か でんぷんの原料 でんぷんの特性	
6	でんぷん 米粉		でんぷんの特性 主な米粉の種類と菓子への用途	
7	復習＆製菓衛生師試験問題		甘味料、小麦粉、でんぷん、米粉の復習 製菓衛生師試験問題	
8. 9	鶏卵		鶏卵の成分 卵白、卵黄の特性 卵の加工品	
10. 11	鶏卵 油脂		鶏卵の成分 卵白、卵黄の特性 卵の加工品 油脂の種類 油脂の加工特性	
12. 13	牛乳・乳製品		牛乳の成分 牛乳、および乳製品の種類や特徴	
14	復習＆製菓衛生師試験問題		鶏卵、油脂、牛乳・乳製品の復習 製菓衛生師試験問題	

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
15	前期定期試験	前期定期試験		
16	前期復習	前期復習		
17. 18	実習	実習にて材料の性質を学ぶ		
19. 20	チョコレート	チョコレート類 チョコレートの種類 チョコレートの特性		
21	復習＆製菓衛生師試験問題	牛乳、乳製品、チョコレートの復習 製菓衛生師試験問題		
22～ 24	果実および果実加工品 復習＆製菓衛生師試験問題	果実の種類と特徴 果実加工品の種類と特徴 果実および果実加工品の復習 製菓衛生師試験問題		
25～ 27	凝固剤 復習＆製菓衛生師試験問題	凝固剤について 凝固剤の復習 製菓衛生師試験過去問題（凝固剤）		
28	種実類（ナッツ類）	種実類の種類、用途		
29. 30	風味、調味材料 （酒類）（香料）（香辛料）	風味、調味材料（酒類）（香料）（香辛料）		
31. 32	補助材料 膨張剤、乳化剤、着色料	膨張剤、乳化剤、着色料		
33	復習＆製菓衛生師試験問題	風味・調味料（酒類、香料、香辛料）の復習 製菓衛生師試験問題		
34	補助材料 製パンに関する材料	製パン材料の種類や用途		
35. 36	菓子の分類（洋菓子） 気泡生地、クリーム	洋菓子の分類 菓子名の由来や製法、特徴		
37	菓子の分類（洋菓子） 加熱生地、発酵生地	洋菓子の分類 菓子名の由来や製法、特徴		
38. 39	菓子の分類（洋菓子） デニッシュ、パイ生地、底生地	洋菓子の分類 菓子名の由来や製法、特徴		
40. 41	製菓衛生師試験問題	製菓衛生師試験問題（製菓実技）		
42. 43	業者などによる講習会	実技や講義、業者などによる講習会		
44	調べ学習	課題に対して調べ学習を行い、まとめる		
45	後期定期試験	後期定期試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
製菓衛生師全書 下 製菓衛生師教本 下 洋菓子教本 その他、必要に応じて資料配布		総合評価	100%	総合評価 （試験70%、平常点 30%←出席率・授業 態度・提出物）

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
製菓実習		パティシエ・ベーカリー学科／1年	2025／通年	実習
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	240回	480時間	必須	高橋, 渡邊, 澤, 東根
授 業 の 概 要				
【洋菓子】 基本生地、基本クリームなどの製菓の基本を段階を踏んで学習します。また幅広い応用菓子も取り入れ、繰り返し学ぶことで技術向上を目標とします。				
【和菓子】 和菓子の基本を学びます。幅広い授業を行い、繰り返し学ぶ事で技術の向上を目指します。				
【製パン】 製パン技術の基本を繰り返し学びます。また、基本を繰り返すことで技術の向上を目指します。				
授業終了時の到達目標				
・ 製菓製造における基本手順を繰り返し行うことで、意欲も技術も向上している。 ・ 洋菓子だけでなく、和菓子・製パンの基本技術を習得しつつある。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		【実務経験】 高橋 克行：洋菓子職人として17年・教諭として18年の勤務経験 渡邊 仁也：パン職人として22年の勤務経験 澤 宏志：和菓子職人として28年の勤務経験 東根 克也：洋菓子職人として44年の勤務経験		
時間外に必要な学修				
事前に配布するレシピを見て予習しておく。 授業後、メモした内容をレシピにまとめ各自でファイリングする。				
回	テ ー マ		内 容	
1～2	洋菓子（基礎実習）		製菓実習の心得と進め方①	
3～4	和菓子（基礎実習）		和菓子の心得・基本と餡炊き	
5～6	洋菓子（基礎実習）		製菓実習の心得と進め方②	
7～8	洋菓子（基礎実習）		設備・機器類の取り扱い説明	
9～10	洋菓子（基礎実習）		材料の取り扱い説明	
11～12	和菓子（基礎実習）		包餡・餅物	
13～14	洋菓子（基礎実習）		クリーム・ナッペ方法と技術①	
15～16	洋菓子（基礎実習）		クリーム・ナッペ方法と技術②	
17～18	洋菓子（基礎実習）		クリーム・ナッペ方法と技術③	
19～20	和菓子（基礎実習）		餅物	
21～22	洋菓子（基礎実習）		クリーム・絞りの方法と技術①	
23～24	洋菓子（基礎実習）		クリーム・絞りの方法と技術②	

回	テ ー マ	内 容
25～ 26	洋菓子（基礎実習）	クリーム・絞りの方法と技術③
27～ 28	和菓子（基礎実習）	練り切り
29～ 30	洋菓子（基礎実習）	ジェノワーズの種類と特徴①
31～ 32	洋菓子（基礎実習）	ジェノワーズの種類と特徴②
33～ 34	洋菓子（基礎実習）	ジェノワーズの種類と特徴③
35～ 36	和菓子（基礎実習）	練り切り
37～ 38	洋菓子（基礎実習）	ビスキュイの基本①
39～ 40	洋菓子（基礎実習）	ビスキュイの基本②
41～ 42	洋菓子（基礎実習）	ビスキュイの基本③
43～ 44	和菓子（基礎実習）	焼き物
45～ 46	洋菓子（基礎実習）	パイピングの基本①
47～ 48	洋菓子（基礎実習）	パイピングの基本②
49～ 50	洋菓子（基礎実習）	パイピングの基本③
51～ 52	和菓子（基礎実習）	焼き物
53～ 54	洋菓子（基礎実習）	ロールケーキ・生地・巻きの技術①
55～ 56	洋菓子（基礎実習）	ロールケーキ・生地・巻きの技術②
57～ 58	洋菓子（基礎実習）	ロールケーキ・生地・巻きの技術③
59～ 60	和菓子（基礎実習）	蒸し物
61～ 62	洋菓子（基礎実習）	バタークリームの種類と特徴
63～ 64	洋菓子（基礎実習）	アングレーズソース/カスタードクリーム
65～ 66	洋菓子（基礎実習）	練り込み生地の基本①（パートシュクレ）
67～ 68	和菓子（基礎実習）	蒸し物
69～ 70	洋菓子（基礎実習）	タルト生地の基本とのしの技術
71～ 72	洋菓子（基礎実習）	タルト

回	テ ー マ	内 容
73～ 74	洋菓子（基礎実習）	タルト
75～ 76	和菓子（基礎実習）	蒸し物
77～ 78	洋菓子（基礎実習）	メレンゲの基本
79～ 80	洋菓子（基礎実習）	練りこみ生地の基本②（パートフォンセ）
81～ 82	洋菓子（基礎実習）	レモンメレンゲパイ
83～ 84	和菓子（基礎実習）	流し物
85～ 86	洋菓子（基礎実習）	シュー生地の基本①
87～ 88	洋菓子（基礎実習）	シュー生地の基本②
89～ 90	洋菓子（基礎実習）	シュー生地の基本③
91～ 92	和菓子（基礎実習）	打ち物
93～ 94	洋菓子（基礎実習）	焼き菓子
95～ 96	洋菓子（基礎実習）	焼き菓子
97～ 98	洋菓子（基礎実習）	焼き菓子
99～ 100	和菓子（基礎実習）	和菓子の基本の復習
101 ～ 102	洋菓子（基礎実習）	プリン
103 ～ 104	洋菓子（基礎実習）	プリンを使ったお菓子
105 ～ 106	洋菓子（基礎実習）	焼き菓子
107 ～ 108	和菓子（基礎実習）	和菓子の基本の復習
109 ～ 110	洋菓子（基礎実習）	焼き菓子
111 ～ 112	洋菓子（基礎実習）	焼き菓子
113 ～ 114	洋菓子（基礎実習）	ムース

回	テ ー マ	内 容
115 ～ 116	和菓子（基礎実習）	前期実技試験
117 ～ 118	洋菓子（基礎実習）	ムース
119 ～ 120	洋菓子（基礎実習）	前期定期試験など
121 ～ 122	洋菓子（専門実習）	ナッペ・絞り
123 ～ 124	製パン（基礎実習）	パンについて
125 ～ 126	洋菓子（専門実習）	ナッペ・絞り
127 ～ 128	洋菓子（専門実習）	パイピング
129 ～ 130	洋菓子（専門実習）	パイピング
131 ～ 132	製パン（基礎実習）	パンの材料と計量の仕方
133 ～ 134	洋菓子（専門実習）	ロールケーキ
135 ～ 136	洋菓子（専門実習）	ロールケーキ
137 ～ 138	洋菓子（専門実習）	シュークリーム
139 ～ 140	製パン（基礎実習）	パン作りの流れ
141 ～ 142	洋菓子（専門実習）	シュークリーム
143 ～ 144	洋菓子（専門実習）	タルト
145 ～ 146	洋菓子（専門実習）	タルト
147 ～ 148	製パン（基礎実習）	ミキシング工程
149 ～ 150	洋菓子（専門実習）	タルト
151 ～ 152	洋菓子（専門実習）	タルト

回	テ ー マ	内 容
153 ～ 154	洋菓子（専門実習）	クレープ生地を使ったお菓子
155 ～ 156	製パン（基礎実習）	パンの分割と丸め
157 ～ 158	洋菓子（専門実習）	フィユタージュ生地の基本①
159 ～ 160	洋菓子（専門実習）	パイ生地を使ったお菓子
161 ～ 162	洋菓子（専門実習）	フィユタージュ生地の基本②
163 ～ 164	製パン（基礎実習）	手捏ね製法
165 ～ 166	洋菓子（専門実習）	パイ生地を使ったお菓子
167 ～ 168	洋菓子（専門実習）	グラスデザート
169 ～ 170	洋菓子（専門実習）	グラスデザート
171 ～ 172	製パン（基礎実習）	伸ばしと成形
173 ～ 174	洋菓子（専門実習）	ショートケーキ
175 ～ 176	洋菓子（専門実習）	ショートケーキ
177 ～ 178	洋菓子（専門実習）	ショートケーキ
179 ～ 180	製パン（基礎実習）	材料の油脂の違いについて
181 ～ 182	洋菓子（専門実習）	ムース
183 ～ 184	洋菓子（専門実習）	ムース
185 ～ 186	洋菓子（専門実習）	ムース
187 ～ 188	製パン（基礎実習）	食パン
189 ～ 190	洋菓子（専門実習）	ムース

回	テ ー マ	内 容
191 ～ 192	洋菓子（専門実習）	焼き菓子
193 ～ 194	洋菓子（専門実習）	焼き菓子
195 ～ 196	製パン（基礎実習）	バターロール
197 ～ 198	洋菓子（専門実習）	焼き菓子
199 ～ 200	洋菓子（専門実習）	焼き菓子
201 ～ 202	洋菓子（専門実習）	焼き菓子
203 ～ 204	製パン（基礎実習）	クリームパン
205 ～ 206	洋菓子（専門実習）	パイピング練習
207 ～ 208	洋菓子（専門実習）	ビスキュイ
209 ～ 210	洋菓子（専門実習）	ビスキュイ
211 ～ 212	製パン（基礎実習）	あんぱん
213 ～ 214	洋菓子（専門実習）	メレンゲ菓子
215 ～ 216	洋菓子（専門実習）	メレンゲ菓子
217 ～ 218	洋菓子（専門実習）	ロールケーキ
219 ～ 220	製パン（基礎実習）	総菜パン
221 ～ 222	洋菓子（専門実習）	ロールケーキ
223 ～ 224	洋菓子（専門実習）	シュークリーム
225 ～ 226	洋菓子（専門実習）	シュークリーム
227 ～ 228	製パン（基礎実習）	製パン基礎の復習

回	テ　　マ	内　　　容		
229 ～ 230	洋菓子（専門実習）	チョコレートの基本・テンパリング		
231 ～ 232	洋菓子（専門実習）	チョコレートの基本・テンパリング		
233 ～ 234	洋菓子（専門実習）	チョコレートを使ったお菓子		
235 ～ 236	製パン（基礎実習）	実技試験		
237 ～ 238	洋菓子（専門実習）	チョコレートを使ったお菓子		
239 ～ 240	洋菓子（専門実習）	実技試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
洋菓子教本 製菓衛生師全書　下 製菓衛生師教本　下 レシピ、その他資料プリント		総合評価	100%	総合評価（試験 70%、平常点30%← 出席率・授業態 度・提出物）

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎講座		パティシエ・ベーカリー学科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	森原 明日香
授業の概要				
・ 専門学校での学習の意味を理解し、進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける				
授業終了時の到達目標				
・ 自己PRや志望動機など履歴書に必要な項目を自ら考えて表現することが出来る				
・ 就職活動の進め方を理解し、自主的に活動することが出来る				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
・ 「物の見方」「考え方」「行動の仕方」を意識的に前向きにして「気付くこと」を習慣化する				
回	テーマ	内 容		
1	社会人基礎講座とは 自分の状況把握	就職に向けてのアンケート 自分の特技などの書き出し		
2	社会人基礎講座の授業内容や目的 自己分析シートを書き込む	社会人基礎講座の授業内容や目的を理解する 自己分析シートを書き込む		
3	就職のイメージを膨らませる	内定が決まっている先輩や卒業生の話を聞き、 少しでも就職への意識を芽生えさせる		
4	キャリアコンピテンシーについて	キャリアコンピテンシーについて		
5	キャリアコンピテンシーについて 就職のイメージを膨らませる	キャリアコンピテンシーを用いて他者から見られている自分を知る 個人店、ホテルなどのそれぞれのイメージの書き出し		
6	それぞれの企業イメージの共有 自己分析シート書き込み	それぞれの企業イメージをグループごとで発表 自己分析シートの書き込み		
7	就職に対してのイメージや不安を書き出す	就職に対してのイメージや不安を書き出す		
8	話の聴き方 ポジティブ言葉	話の聴き方を考える ポジティブ言葉への返還		
9	自己分析＆相手に伝える	履歴書を作成する上で相手に伝えることをまとめる		
10	面接について	面接での立ち振る舞い 会釈、面接マナー		
11	履歴書について	履歴書の書き方、文章を書くうえでのポイントを知る		
12	履歴書の作成（下書き）	説明したことに気を付けながら履歴書を下書きする		
13	履歴書の作成（下書き）＆提出 履歴書清書	説明したことに気を付けながら履歴書を下書きする		
14	履歴書清書	添削後の履歴書を修正し、清書を仕上げていく		
15	就職先を探す方法 面接対策授業、合同企業説明会について	就職先を探していくうえでのポイントや探し方を知る 面接対策授業、合同企業説明会の説明		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
就職の手引き その他、必要に応じてプリントや資料配布		授業態度・取り組み方 課題評価	60.0% 40.0%	配布プリント等は ファイリングしておくこと。